



DSHGemLib, DSHEng4、DSHEng3 (GEM+GEM300)

HSMS 通信ドライバー環境定義ファイル設定・編集プログラム V-2.0

(DshSetCommDef.exe)

操作説明書

2013年5月 (改訂)

株式会社データマップ

文書番号 DSH-COMMDEF-12-30803-03



[取り扱い注意]

この資料ならびにソフトウェアの一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
本説明書に記述されている内容は予告なしで変更される可能性があります。

Windows は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

ユーザが本ソフトウェアの使用によって生じた遺失履歴、(株) データマップの予見の有無を問わず発生した特別損害、付随的損害、間接損害およびその他の拡大損害に対して責任を負いません。

【改訂履歴】

番号	改訂日付	項目	概略
1.	2012.11	初版	
2.	2013.5	設定の一部にコンボボックス(プルダウンリスト)を使用可にした。	ログモード HSMSポートモード (Active, Passive)
3.			
4.			

DSHGEMLIB, DSHENG4、DSHENG3 (GEM+GEM300)	1
1. はじめに	1
1. 1 関連資料.....	1
1. 2 関連プログラムツール一覧.....	2
2. 起動と初期画面	3
2. 1 起動の方法	3
3. 基本情報の定義設定操作	6
3. 1 画面と操作	6
3. 2 ポートの定義設定操作	7
3. 3 デバイスの定義設定操作	7

1. はじめに

本説明書は、DSH 通信エンジンが使用する DSHDR2 HSMS 通信ドライバーのための通信環境定義ファイルの生成・編集を一覧表画面を使って操作するためのプログラムです。

HSMS 通信環境定義ファイルはテキストファイルです。通常使用されるファイル名は comm.def です (拡張子 def)

HSMS 通信環境定義ファイルの作成は、以下のような形になります。



操作では、以下の3つのケースがあります。

- ① ファイル-A がなく、画面で編集してファイル-B に出力する。
- ② ファイル-A を読み込み、編集して、同じファイル-A に出力する。
- ③ ファイル-A を読み込み、編集して、別のファイル-B に出力する。

1. 1 関連資料

DSHDR2 HSMS 通信ドライバーと通信環境定義ファイルの編集関連ツールについては、次の説明書があります。

	文書番号	文書名	注釈
1	DSHDR2-10-20080-08	DSHDR2 SECS/HSMS レベル2通信ドライバー ユーザーズ・ガイド C、C++、.Net版(C#2008, VB2008)	
2	DSH-NAVI-12-30801-00	DSH エンジン・ツール・ナビゲータ	
3	DSH-COMMDEF-12-30803-02	HSMS 通信ドライバー環境定義ファイル設定・編集プログラム V-2.0	(本文書)

1. 2 関連プログラムツール一覧

番号	プログラム名	用途
1	DshNavi.exe	以下のプログラム・ツール群に格納するメニュー画面の役割をします。 ボタンクリックで、プログラムを選択し、起動します。
2	DshGemSet.exe	装置変数情報定義ファイルの編集を行います。 EC, SV, DVVAL, CE, Report, Alarm などの管理情報の ID とプロパティの定義を行います。
3	DshCompile.exe	装置変数定義ファイルをコンパイルします。 (DshGemSet.exe 内の操作でもコンパイルできます。)
4	DshSetCommDef.exe	DSHDR2 HSMS 通信ドライバ-が使用する通信環境定義ファイルの編集を行います。 (本説明書が対象とするプログラムです。)
5	DshSeeBackfile.exe	アプリケーション実行によって更新された変数(通信エンジンが管理します)のバックアップファイルの内容を参照するためのプログラムです。

2. 起動と初期画面

2. 1 起動の方法

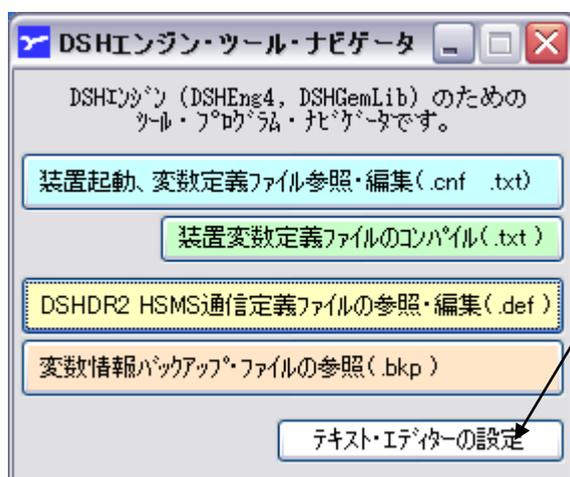
プログラムファイル名は DshSetCommDef. exe です。

2つの方法があります。

- ① DshSetCommDef. exe を単独で、直接起動する方法

Windows の **スタート**、**プログラム** から、DshSetCommDef. exe を選択して起動する方法など。

- ② 最初に DshNavi. exe を起動し、その中の **DSHDR2 HSMS 通信定義ファイルの参照・編集** ボタンのクリックで起動することができます。



初期画面を次ページに示します。

初期画面

DSH通信Engine HSMS 通信環境定義ファイル Comm.def の作成

通信環境定義ファイル名: C:\DSHEngC\bin\comm.def 開く 情報読込 上書き保存 別名で保存 エディターで確認 ヘルプ

基本項目の定義 エディターを指定

番号	項目名	コメント名	設定値	コメント
1	メッセージ最大長(バイト)	MAX_MSG_SIZE	x1000040	SECS-IIメッセージ許容バイト数
2	管理トランザクション最大数	MAX_TRANSACTION	512	同時に管理できるトランザクション数(256, 512 or 1024)
3	ログファイル名	LOG_FILE	%dsheng4%log%DSHDR2.LOG	ログファイル名 モード=2(DAILY)でディレクトリ部分を使用
4	ログ収集モード	LOG_MODE	DAILY	DAILY or 2=日付別ファイル 0,1=指定ファイル名に保存
5	ログ保存最大行数	LOG_LINE	10000	0,1 モードでの保存最大行数
6	ログファイル保存月数	LOG_LIFE	6	DAILYモードでの過去ファイルの保存月数
7	ログ日付時刻表現形式	TIME_FORMAT	YYYY/MM/DD HH:NN:SS.CC	ログ日付時刻形式 YYYY/MM/DD HH:NN:SS.CC
8	モニター使用TCPポート	MON_PORT	9999	HSMS通信メッセージモニターが使用するTCPポート

ポートの定義

ポート	プロトコル	モード	TCPポート	IP(d.d.d.d)	T3(sec)	T5(sec)	T6(sec)	T7(sec)	T8(sec)	LINKTEST(sec)	S9Fx	S9F1	S9F9
0													
1	HSMS	ACTIVE	6001	127.0.0.1	45	10	5	10	5	5		0	
2	HSMS	PASSIVE	5003		45	10	5	10	5	0			
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9	HSMS	PASSIVE	5009		45	10	5	10	5	0			

デバイスの定義

デバイス	DVID(SessionID)16進	リンクポート
0		
1	x1234	1
2	x2345	2
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9	x5999	9

ログ表示エリア

```

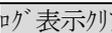
----- C:\DSHEngC\bin\comm.def の読み込み -----
----- C:\DSHEngC\bin\comm.def の読み込み正常終了 -----

```

画面構成は次のようになります。

- ① 上の表が、ドライバーの基本項目の定義表です。
- ② 真ん中の表が、ポート（ドライバー）の定義表です。
- ③ 下の左の表が、デバイスの定義表です。
- ④ 下の右の部分が、実行した操作のログ、エラー情報の表示用テキストボックスです。
- ⑤ 画面1番上の部分に、編集対象としているファイル名と操作ボタンになります。

ボタン名	用途
開く	通信環境定義ファイル名を指定します。ファイルを開くが何らかの画面を使います。正常に開けた場合、ファイルの内容も読み込み、内容を表示します。
情報読込	ファイル名に指定されたファイルの内容を読み込み、内容を表示します。
上書き保存	画面上に定義された内容を指定されたファイルに上書きします。書込む前に、設定値のチェックを行います。
別名で保存	画面上に定義された内容を新たに指定したファイル名で、書込みます。書込む前に、設定値のチェックを行います。
エディターで確認	指定されたファイルの内容を直接テキストエディターで開きます。 (編集も可能です。変更した後は、情報読込ボタンで再読み込みが必要です。)
エディターを指定	使用するテキストエディターを指定します。 (ユーザが通常ご使用のエディターを指定できます。)

	定義ファイルで設定するマント [®] を画面で参照できます。
	ログ画面に表示されている内容を消去します。

3. 基本情報の定義設定操作

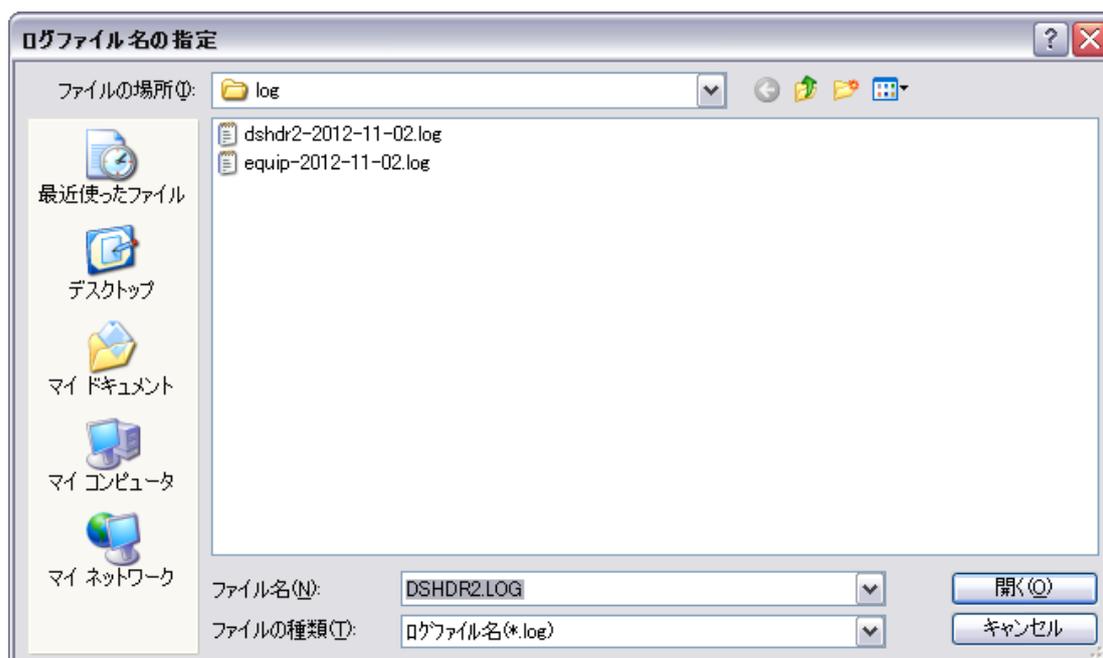
3. 1 画面と操作

以下の画面の設定値の列の 設定値 欄の該当項目のセルに直接キー入力で値を設定します。

基本項目の定義				エディターを指定
番号	項目名	コメント名	設定値	コメント
1	メッセージ最大長(バイト)	MAX_MSG_SIZE	x1000040	SECS-IIメッセージ許容バイト数
2	管理トランザクション最大数	MAX_TRANSACTION	512	同時に管理できるトランザクション数(256, 512 or 1024)
3	ログファイル名	LOG_FILE	%dsheng4*log%DSHDR2.LOG	ログファイル名 モード=2(DAILY)でテイル外り部分を使用
4	ログ収集モード	LOG_MODE	DAILY	DAILY or 2=日付別ファイル 0,1=指定ファイル名に保存
5	ログ保存最大行数	LOG_LINE	10000	0,1 モードでの保存最大行数
6	ログファイル保存月数	LOG_LIFE	6	DAILYモードでの過去ファイルの保存月数
7	ログ日付時刻表現形式	TIME_FORMAT	YYYY/MM/DD HH:NN:SS.CC	ログ日付時刻形式 YYYY/MM/DD HH:NN:SS.CC
8	モニター使用TCPポート	MON_PORT	9999	HSMS通信メッセージモニターが使用するTCPポート

数値の頭に、x 文字が付いている値は、16進数のを示します。

但し、番号4のログファイル名 LOG_FILE については、その行の設定値のセルをダブルクリックし、以下のダイアログ画面を使って、ファイル名を指定することができます。



3. 2 ポートの定義設定操作

以下の画面で、画面1列目の番号のポートの行に対し、各項目の値をセルを選択し、値をキー入力します。
 なお、各項目の設定の必要性などについては、 ボタンをクリックし、ヘルプ画面を参照してください。

ポートの定義													
ポート	プロトコル	モード	TCPポート	IP(d.d.d.d)	T3(sec)	T5(sec)	T6(sec)	T7(sec)	T8(sec)	LINKTEST(sec)	S9Fx	S9F1	S9F9
0													
1	HSMS	ACTIVE	6001	127.0.0.1	45	10	5	10	5	5		0	
2	HSMS	PASSIVE	5003		45	10	5	10	5	0		0	
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9	HSMS	PASSIVE	5009		45	10	5	10	5	0			

3. 3 デバイスの定義設定操作

以下の画面で、画面1列目の番号のデバイスに対し、各項目の値を選択し、値を入力します。

なお、各項目の設定の必要性などについては、 ボタンをクリックし、ヘルプ画面を参照してください。

数値の頭に、**x**文字が付いている値は、16進数の値を示します。

デバイスの定義		
デバイス	DVID(SessionID)16進	リンク・ポート
0		
1	x1234	1
2	x2345	2
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9	x5999	9